
エール

ふいによ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エール

【コード】

N1862BA

【作者名】

ぶにょ

【あらすじ】

女性の会話に突然加わった彼の目的とは……。

照川は到着したエレベーターにイの一番に乗り込むと、会社のあ
る六階のボタンを押す為に操作板の前に陣取った。

次々として来る人中はすぐに一杯になり、最後のひとりが何
とか箱に詰め込まれたのを確認してから、”閉まる”のボタンを押
した。

外は土砂降りで、濡れた傘が他の人の服に触れないように気を遣
う。

すし詰めエレベーターが上昇を始めると、頭上にある階数表示を
見上げる照川の耳に、背後から女性同士の会話が聞こえてきた。し
やべっているのはその二人だけで、他の人は押し黙ったまま、この
時間をやり過ごそうと決めたようだ。

「雨の日ってイヤよね。なんか、こう、髪がまとまらないんだもん」
「そうだよ。私も、ほら、こんな風に髪が膨らんじゃってさ」

そんな物なのかな。聞くとともに聞こえてくるそんなやり取り
だったが、照川には関心のない内容だった。

そこへ男の声が割って入る。

「やっぱりさ、湿度が高い日はしょうがないんじゃないかな。ねえ」
伸びのある声は割と若く感じられた。照川は突如会話に加わった
男性を不思議に思いつつ、当人もロン毛なのかな、と勝手に想像し
た。

しかし声を掛けられたはずの彼女達は、なぜか一向に応える様子
がない。そしてそのまま箱は沈黙に包まれてしまった。

ちんっ。

音と共にエレベーターが五階に到着すると、照川は身体を壁に押
し付けて、外へ出て行く人達の為に道を開けた。

”開く”のボタンから手を離そうとした照川が後ろを振り向くと、
残っているのは頭の禿げ上がったおじさんひとりだけになっている。

彼はなぜか肩を落として頂垂れていた。

「ああ……」溜息ともつかない吐息が漏れると、どうやら先程会話に加わった声の主だと分かった。つまり彼らは同じ会社の同僚ではなかったという事だ。

再びエレベーターが上昇を始めると、ふいに顔を上げた彼と目が合ってしまった。

一瞬気まずい雰囲気は漂ったが、引き込まれるように目を離す事が出来ない。

ああ、そうか……。そして照川はすべてを悟った。

潤んだ瞳の中にある彼の願い、それは……。

ちんつ。二人が見詰め合ったままの状態で箱は六階に到着した。

慰めてやるべきか迷ったが、結局照川は無言のまま彼に背を向け、廊下へと足を踏み出した。

分かっていた。

彼が何を望んであんな行動に出たのか。髪の毛の薄い彼が彼女達に何を望んでいたのか。

それでも照川は何も言わなかった。いや、言えなかった。

「何言ってるのよ、あなた髪がないじゃないの……」

彼は彼女達につっこんで欲しかったのだ。そのひと言を得る為だけに会話に加わった彼の玉砕した背中に、掛ける言葉など見付かるはずもない。

君はよくやったよ……。ただ心の中でそう唱えてやるだけだ。

音もなく閉まった扉の隙間から見えた床の水溜り。それは彼の代わりに泣いた傘から流れ落ちた、涙のように見えた。

(後書き)

(ぷにょシヨート第二十九話と同じ物です。)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1862ba/>

エール

2012年1月4日19時53分発行